



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

乙島っ子

令和3年度 NO. 41

令和4年 1月12日 倉敷市立乙島小学校

「つながり」を感じて生きる

1月10日(月)、「成人の日」のこの日、乙島小学校では約60名が集い、小学校区のコミュニティ協議会主催の「手作り凧揚げ大会」が行われました。

地域の、まさに「先生」が、連凧、和風角凧作りを指南くださり、それぞれの児童がそれぞれの凧を作り上げました。この日は風が少し弱めでしたが、体育館から運動場に出た児童は、新春の青空に向け、自慢の凧を揚げ合いました。

「大空を見上げて育て乙島っ子」というテーマまで示され、なされていることは、「学校教育」さながらです。また、テーマの内容も、子どもを愛し、温かく見守る地域の方々のスタンスや思いがピンピン伝わってくるものです。

昨今、学校のみならず社会においても、「地域との関係づくりの希薄さ」が指摘されていますが、乙島小学校では、「どこ吹く風」のようにも映ります。「『つながり』を感じて生きる」…本校の児童育成のテーマとしたいと思います。



揚がる連凧



地域のまさに「先生」!



「子ども・親・地域」と三世代がつながる

SDGs：持続可能な開発目標

SDGs(エスディーゼズ)、この言葉が新聞やテレビ等で頻繁に聞かれる今日この頃となりました。Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)と訳されたこの目標は、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げられた目標とのことです。

「へえ…」と思わせられたのは、「7年前から掲げられ、気が付けば、あと8年のうちに達成が求められている」ということです。

始業式でも、題字の左に示してある「バッジ」とともに児童に紹介し、「1年生の人、難しいけれど、この言葉を『知っている』と言えるようであるといいなと思います」と伝えました。「だれ一人として欠けることなく、私たちがこれからもずっとずっと幸せにいらしていけること」と説明したSDGsの理念は、2学期の終業式でも紹介した良寛さまの生き方にも通ずるものがあると考えられます。



故郷の新潟に戻り、山中の小さな庵に住んでいた良寛さまに、長岡藩主が寺の住職になつてほしいと依頼します。すると、「私が庵で煮炊きするくらいは、風が運んでくれる落ち葉で十分。山の暮らしは、物に乏しくても満ち足りている」と歌を詠まれたそうです。



玉島の円通寺で修行を積まれた…

りょうかん 良寛さま